

2013年4月22日

保護者の皆様へ

奈良女子大学附属中等教育学校
学校長 高田 将志

学校からのお知らせ

今年は厳しい寒さが続き、風塵による被害等もありましたが、例年より桜の開花が早く、グラウンドの桜も入学式には葉桜になっておりました。

小林毅校長が3月末日をもって退任され、私、高田が後任として4月8日に着任致しました。大学では、文学部人文社会科学地域環境学コースで、主に自然地理学を教えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、4月9日には、123名の初々しい新入生を迎え、新たな学校生活が始まりました。本年は昨年度に引き続き、学校の施設設備の充実として、空調機の更新および新設を進めていく第Ⅱ期に当たります。北館の特別教室の空調機工事を実施する予定で現在計画を進めています。

また、7月には「YES for ESD」(高校生による国際会議)を、8月にはSSHサイエンスキャンプ ScAN を本校がホスト校となり開催することになります。保護者の皆様のご理解とご協力を切にお願い致します。

来たる4月26日のPTA総会に先立ちまして、下記の通り、いくつか連絡させていただきます。

1 空調機の新設・更新について

昨年度は、7月～8月の夏季休業期間に、南館の空調機の新設及び更新の第Ⅰ期工事を行うことができました。ひとえに皆様からいただいた協力金等によるご支援があったから実現したことと感謝申し上げます。

本年は、第Ⅱ期工事として、北館の特別教室を中心に空調機の新設及び更新の工事を実施する予定です。現在、大学施設企画課が工事設計を行っているところです。できるかぎり夏季休業中に工事を完了する予定で計画を進めていますが、若干9月まで伸びることも予想されます。工事計画がわかり次第お知らせし、生徒の安全確保を最優先にし、教育活動に支障がないよう、配慮していきます。

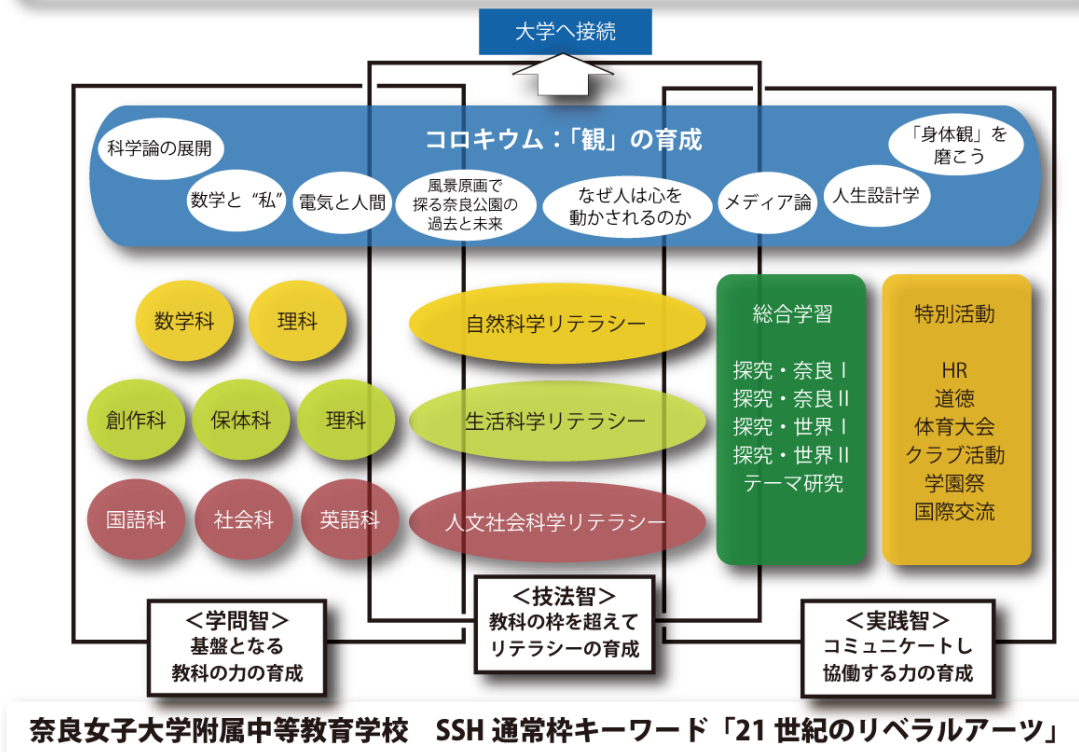
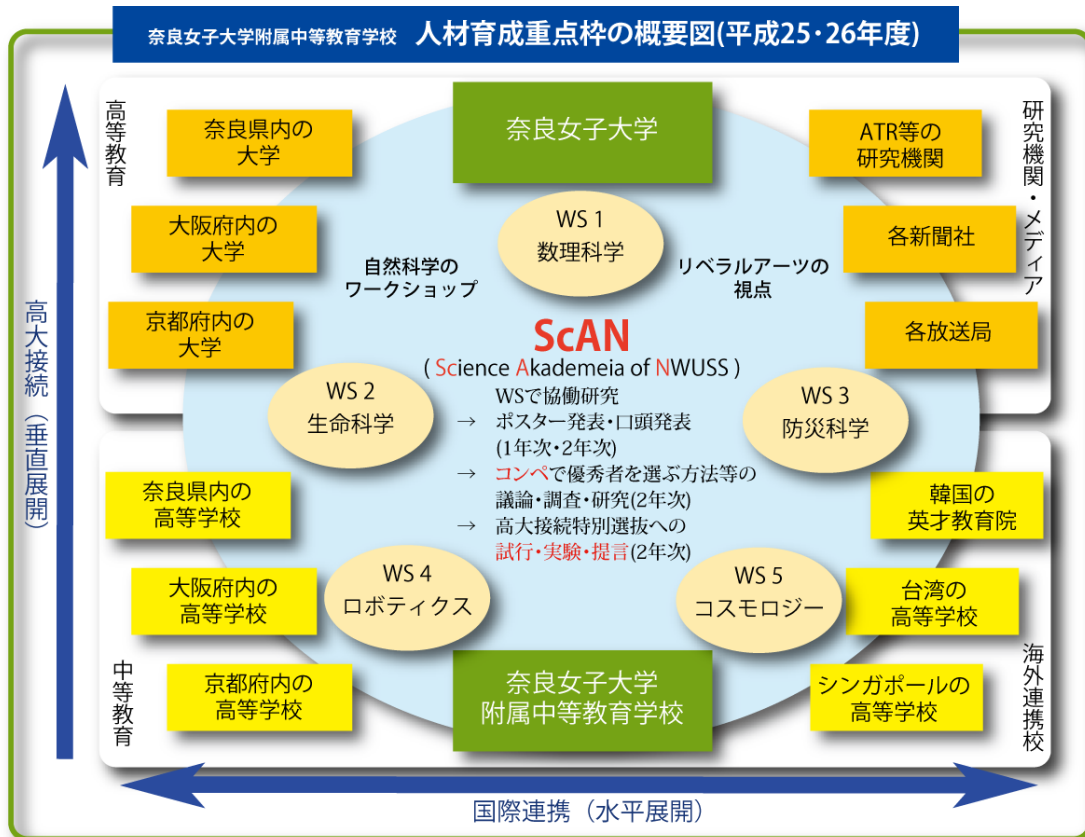
2 研究開発学校として

(1) Ⅱ期 SSH 指定の4年目、科学技術人材育成重点枠に指定

2010年度から5年間のSSH指定を受け、本年がⅡ期目の4年次となります。さらに、コアSSH(海外連携分野)に3年連続で指定され、2012年度はSCoPEを実施してきましたが、コアSSHに代わって新たに設置された「科学技術人材育成重点枠」に、2013年度から2年間の指定を受けて研究を続けることになりました。

昨年度のSCoPEを発展させて、今年度から2年間の指定で、ScAN (Science Akademeia of

NWUSS) という国際交流プログラムを実施していくことになります。これまで実施してきた中高生合同のサイエンスキャンプ (ASTY Camp、SCoPE) を継承しつつ、高大接続の拡充を視野に入れて研究開発に取り組むことになります。



(2) ユネスコスクールとして

ユネスコスクールは、1953年にASPnet (Associated Schools Project Network) として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究する共同体として発足し、2013年には60周年を迎えました。

本校にとっては、ポスト「グローバルクラスルーム (GC)」としての国際交流の取組に位置づけて、YES for ESD (Youth and Educators' Summit for Education for Sustainable Development) という東アジアを中心とした高校生のフォーラムに参加しています。昨年、フィリピンで開催されたフォーラムが、本年は本校開催となります。7月7日(日)～7月12日(金)までの6日間、フィリピン、韓国、台湾、インドネシアの学校からの参加と、本校生徒を含めて総勢60名の規模になる予定です。ホームステイ等でお世話になることと存じますが、どうぞよろしくお願い致します。

3 東日本大震災からの復興・復旧に向けて

2011年3月11日に東日本を襲った巨大地震と津波により多くの尊い命が奪われました。また、福島第一原子力発電所の事故により、いまだに多くの人々が避難を余儀なくされています。本校では、震災直後から生徒会や有志の生徒・教員がボランティアに参加し、復興支援を行ってきました。今後もさまざまな形で継続的な支援をしていくつもりです。

(1) OECD 東北スクールについて

「OECD 東北スクール」とは、OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development) 教育局が東日本大震災により被害を受けた子どもたちのやる気をひきだすため、モチベーションを高める効果的な学習法を実施するプロジェクトのことで、プロジェクトのゴールは、2014年9月にフランス・パリで、東北の魅力をアピールするためのイベントを自ら企画・実行するところにあります。

本校の役割は、このプロジェクトを実現するために、エンパワメント・パートナーとして参加協力していくことです。すなわち、東北域外(国内外)のパートナーとして、東北とつながることで「力」を生み出す役割を担うこととなります。昨年度も長期休業中に東北の中高生とのフォーラムを実施してきました。

今後も2014年9月のゴールを目指して、1週間集中スクール(「熟議」する場)に参加していくこととなります。

(2) 「地球のステージ」の開催について

地球のステージとは、1996年から始まった「世界の子どもたちに、映像と音楽で近づこう」というテーマで企画された開発教育系プログラムです。ライブと音楽演奏、大画面の映像・スライド上映、そして医師桑山紀彦さんの語りを組み合わせた、まったく新しいタイプのコンサート・ステージです。桑山さん自身も宮城県名取市で被災し、震災直後から被災者の心のケアに取り組んでこられました。

本年も10月25日(金)に「地球のステージ」を開催する予定です。保護者の皆様にも多くの参加をいただきたいと思いますと考えております。

4 高大連携特別選抜と進路状況

(1) 奈良女子大学との連携

奈良女子大学と本校は、平成 20 年度より「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成を目指す高大連携特別教育プログラム」を実施してきました。さらに平成 21 年度より、同プログラムを履修した附属中等教育学校生（女子）を対象とする「高大連携特別教育プログラムに基づく特別選抜」を実施しています。2012 年度は 5 名の生徒が、奈良女子大学に進学しています。なお、大学の改組に伴う「特別教育プログラム」「特別選抜」の変更については、後期課程の段階で生徒・保護者にお知らせします。

(2) 2012 年度卒業生の進路状況

今春の進路結果についてお知らせします。

国公立大学合格者は、61 名（現役 45 名、過年度生 16 名）でした。合格者数は、昨年とほぼ変わらない状況です。今年の特徴としては、医学部医学科に現浪合わせて 8 名が合格したことが挙げられます。また、奈良女子大学の合格者も昨年と同様 10 名でした。高大連携特別選抜の合格者も含めて、大学との連携が強まってきたことの現れと捉えています。

また、私立大学には 50 名（現役 36 名、過年度生 14 名）が進学し、現役生からの家庭学習者は 37 名となりました。数年来、現役志向で合格すれば私立大学への進学を決める傾向がありましたが、今年は現役生で私大進学者は 36 名にとどまり、来年に捲土重来を期す者が増加しています。今年の傾向として、海外の大学や専門学校を志向する生徒が出てきたことも挙げられます。今後は、海外の大学等への進学も含めた進路指導を視野に入れておく必要があります。よりいっそう丁寧な進路指導が求められるようになってきています。

（詳細は、「フォルトナ（進路のしおり）」を後日 3 年生以上に配布します。）

5 生協支援について

本校生協食堂につきましては、開業当初は経営状態も良好だったのですが、数年後から経営が成り立つかどうかの瀬戸際の状況が続いております。また、2002 年の開業以来 10 年が経過し、機材の更新等が必要となっています。生協委員会や生協理事会において経営の効率化を図り、営業収支改善の経営努力を続けてきましたが、生協食堂を存続させるためのご支援ご協力を今後もお願い致します。

学校としては、次のような対策を講じて、より一層の生協支援を継続していくことを考えております。どうか趣旨をご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

- ① 食券売機 2 台を設置したことで、スタッフが調理・配膳に集中できる体制を取り、混雑緩和を図る。
- ② 弁当持参者の食堂利用時間の限定や、一品購入ルールの徹底を図る。
- ③ 定食メニューの充実、テイクアウト食品の限定により、食数増加を図る。
- ④ 学年 PTA 等、イベントでの利用を促進する。